（ 様式D－２ ）
（ 別　　紙 ）

令和６年度　海外派遣研究員研究報告書

令和　７年　３月　２５日

日本大学理事長　　殿
日 本 大 学 学 長　　殿

所　　属　文理　　学部（人文科学研究所）
資格・氏名　助教　片倉　健博
■本報告書の内容を公表することは了承しております。
（公表可の場合，チェック■すること）

令和　６年度海外派遣研究員（　長期　）の研究実績を，下記のとおり報告いたします。

記

１　区　　分　　長期

２　研 究 課 題

台湾所蔵の中国近世白話文学資料に関する調査

３　派 遣 期 間　　西暦　２０２４年　４月　１日　～　２０２５年　３月２４日

４　派　遣　先　　台湾

５　研 究 目 的

昨今、台湾の存在感は日増しに高まっている。台湾はその歴史的背景から、中国古典籍の所蔵数や所蔵される書籍の学術的価値は、中華人民共和国には及ばないと見なされている。だが、国共内戦期には、蒋介石率いる国民党が故宮などの所蔵する貴重な書籍を北京より持ち出し、それらの一部は紆余曲折を経て、現在は台湾に所蔵されており、台湾の存在を無視することはできない。台湾所蔵の古典籍のうち、中国の伝統的価値観に則った儒教経典や文言によって書かれた書籍に関しては、すでに先行研究により、その学術的価値が明らかにされている。しかしながら戯曲や白話小説は中国の伝統的価値観により、長年にわたって正統な文化とは見なされていなかったため、その書誌学的調査はまだ十分に行われているとは言い難い。そこで本研究では台湾所蔵の中国近世白話文学作品を調査し、それらの学術的価値を明らかにし、それらの作品の書誌学的な位置づけを行うことを目的とする。

（ 様式D－２ ）

6　研 究 概 要

台湾は中国語文化圏の一部ではあるものの、一般に中国と言われる中華人民共和国とは異なる特色を有している。その歴史的背景から中国と台湾を並べて比較する場合、近現代にばかり目が向きがちだが、近代以前においても台湾は中国とは異なる特徴を有しており、近代以前の台湾を安易に中国の一部と見なすことはできない。

台湾は中国語文化圏に属するものの、中国の伝統文化の中心地から遠く離れたところに位置する離島にすぎず、しかも中国語文化圏に取り込まれたのも 17 世紀の鄭氏政権以降のことであり、あくまでも新興の中国の周辺地域の一部でしかなかった。そのため台湾は中国の伝統的価値観に則ると、さほど重要視される地域ではなく、近世以前の古典籍の出版・収蔵元としてあまり顧みられてこなかった。

しかしその状況は近代になって一変することとなる。日中戦争および国共内戦期に国民党が故宮および北平図書館に所蔵される貴重書を多く、台湾に運び出したため、台湾は中国古典籍の重要な収蔵元となった。中国の伝統的価値観に則った儒教経典や文言で書かれた文学作品については、先行研究においてその学術的価値がすでに明らかにされている。しかしながら、中国の伝統的価値観では正統な文学と見なされない白話文学に関しては、まだ十全な研究がなされているとは言えない。
とくに台湾の国家図書館に所蔵される一連の北平図書館旧蔵本は、その存在は知られているものの、オンラインで全画像が公開されているものは、ごく一部の儒教経典などに限られており、筆者の専門とする近世白話文学の作品は未だにオンラインで画像は公開されていない。そのため、それらの中には学術的価値がまだ明らかでないものも少なくない。

筆者は明清の三国志物語を扱った戯曲と白話小説を主な研究対象としており、かつて明代伝奇『連環記』と元雑劇『連環記』の関係および現存テキストの継承関係について論じたことがある。しかしながらその当時は、台湾所蔵の明代伝奇『連環記』と元雑劇『連環記』を目睹することができず、『連環記』のテキストを全面的に詳しく論じることができなかった。また筆者は清朝宮廷演劇「鼎峙春秋」に影響を与えたとされる明代伝奇『東呉記』や宮廷演劇台本の可能性のある『平蛮図』などについても論じたことがあるが、そのときは中国の所有する「鼎峙春秋」としか比較・検討することができず、台湾所蔵のバージョンの異なる「鼎峙春秋」に考察に加えることができていない。

そこで本海外派遣によって、長期間滞在して台湾の国家図書館をはじめとする台湾所蔵の近世白話文学の資料、とりわけ『三国志演義』など白話小説との関係の密接な明清戯曲のテキストを調査することで、これまでの自身の研究を補完して、さらにこれまであまり注目されてこなかった台湾所蔵の近世白話文学資料の書誌学的な位置づけを行う。

7　研究結果・成果

本研究では主に台北故宮博物院に所蔵される『鼎峙春秋』の調査を行った。『鼎峙春秋』は、テキストにより長さや描かれる内容に異同があるものの、『三国志演義』を主な題材として三国志の物語を一通り描くことを意図して清朝の宮廷内で制作されたもので、18 世紀末に誕生し、19 世紀に京劇が大流行するにあたり、大いに参照されて、京劇の三国志物語を描く劇本の藍本となるなど、近世の京劇の劇本の形成にも極めて大きな影響を及ぼした２００齣を超える大長編の演劇である。

その『鼎峙春秋』のテキストは、中華人民共和国所蔵の抄本ばかりが注目され、先行研究においても、台湾故宮博物院所蔵のテキストはその存在が指摘されるばかりであって、台湾故宮博物院所蔵のテキストそのものを考察対象とした研究は、管見のおよぶかぎり、日本語論文では 1 篇しか存在せず、十分な研究がなされているとはいえなかった。

そこで、本研究では台北故宮博物院所蔵『鼎峙春秋』のマイクロフィルムを用いて、中華人民共和国所蔵の抄本および日本に所蔵される『鼎峙春秋』テキストの端本と文字の異同の比較を行った。その作業過程において、台北故宮博物院所蔵『鼎峙春秋』から、朱希祖の蔵書印を発見したことから、台北故宮博物院所蔵『鼎峙春秋』が中華民国期、一時的に朱希祖所蔵となっていることを確認した。

朱希祖は魯迅と同時代に日本に留学し、魯迅の弟で日本人の妻をもつ周作人とも交流のある人物で、中華民国時代に北京大学教授を務めた著名な南明史研究家で、蔵書家でもある。筆者は以前、「朱希祖旧蔵『連環記』抄本について」（『汲古』61 号、2012 年）において、明代伝奇『連環記』の抄本にも朱希祖旧蔵のものがあり、それが台湾に所蔵されていることを指摘したことがある。今回の新たな発見は、朱希祖旧蔵本の流通経路解明の一端となろう。

また、1930 年代に約 5 年間にわたり『故宮週刊』に連載されていた嘉慶本とも称されるバージョンの『鼎峙春秋』と台北故宮博物院所蔵『鼎峙春秋』との異同を比較したところ、台北故宮博物院所蔵『鼎峙春秋』には、『故宮週刊』連載の嘉慶本には見られない詳細なト書きがあり、そのうえ齣のタイトルについても成立が先行するとされる中華人民共和国所蔵の『鼎峙春秋』と多くの一致や類似が見られた。しかも『故宮週刊』連載の嘉慶本では文字が判読不能とされていた箇所が、台北故宮博物院所蔵『鼎峙春秋』では判読できることなどから、台北故宮博物院所蔵『鼎峙春秋』の方が、『故宮週刊』連載の嘉慶本よりも整ったテキストである可能性が判明した。

さらに中華人民共和国所蔵の『鼎峙春秋』と『故宮週刊』連載の嘉慶本と、台湾に所蔵される通俗文学を収集影印した新文豊出版公司の『俗文学叢刊』全 620 冊に収録される三国志関係の戯曲と描かれる物語の内容や文字の異同について比較調査をしたところ、『鼎峙春秋』に描かれている台詞や唱は、『鼎峙春秋』に先行する三国志物語を描く戯曲作品の影響を受けている具体例を複数確認した。また、崑曲や京劇をはじめとする主に 18 世紀以降の三国志物語を描く伝統演劇の劇本と相関関係があることを確認した。その際、戯曲テキストの文字の異同により、三国志物語

の作中の人物の形象が、『三国志演義』などの小説作品や崑曲や京劇などの伝統演劇および説書などの民間の語り物芸能などを通して、多くの人々にいわばパブリックイメージとして知られ、共有されている人物像とは大きく乖離していることが判明したため、その人物を主人公とした明代の伝奇、清代の伝奇、崑曲、京劇および近代の京劇劇本などを含め 10 種の戯曲テキストを比較検討して、人物形象の変遷とその原因を通時的に考察することで、具体的な変遷過程とその原因を明らかにして、「「華容道」故事変遷考――『三国志演義』と異なる関羽像の継承」（『中国語中国文化』第 22 号）としてまとめることができた。

以　　上